

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0472200575
法人名	社会福祉法人 鶴寿会
事業所名	認知症対応型共同生活 グループホームふれあい
所在地 (電話番号)	宮城県柴田郡川崎町大字川内字河原前5-3 (電話)0224-84-4820

評価機関名	特定非営利活動法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 19 年 10 月 30 日

## 【情報提供票より】19年9月26日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 16年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	15 人, 非常勤 人, 常勤換算 人

## (2)建物概要

建物形態	併設/単独	新築/改築
建物構造	( 木造 ) 造り	
	1 階建て	1 階 ~ 1 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	11,400 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 0 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 0 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1000 円	

## (4)利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	5 名	要介護2	7 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.8 歳	最低	69 歳	最高	95 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	国民健康保険 川崎病院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

川崎町の西北に位置し遠くに蔵王連峰が見え、四季の変化を感じ木材をふんだんに使いゆったりした温かさを感じる建物である。同敷地には、法人の地域密着型の多機能複合施設があり協力体制も整っており、安心して過ごせる環境にあった。管理者は異動して一年とのことだが外部評価を期にこれから取り組むべき課題に気づき、前職のケアマネージャー経験を活かし実践されていた。地域住民と国道をはさみ距離があることで、双方気軽に行き交うには困難であるが、地域に在住の職員が多く、地域育成会に働きかけていこうとしている。地域住民に認知症ケアを理解した地域福祉の拠点として役割を果たせるよう川崎町からも協力をさせていただくことで地域密着型サービス事業所として大いに期待できる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では指摘箇所がなかった。これまでのサービスをよりよいものにと改善課題を見出し、医師との関わり等を始め積極的に職員と共に改善すべく取り組まれていた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は各ユニットの主任を中心に職員と共に作成、より良いサービスを目指すべく、医師、川崎町との関わり、同法人の施設との合同の行事、地域との交流等を管理者始め職員と共にすでに取り組まれていた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に同法人事業所の関係者と一緒に民生委員、区長、川崎町の担当者が出席し開催されているが認知症ケアの応援者である家族、本人が不在の会議である。地域密着型の基本理念であり、本人、家族の要望、意見を聞き、より良いサービスに向けた取り組みを期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	入居されている方の多くが近隣の地域であり、面会者も多く日頃家族と連絡を取り合うことでその都度要望に答えている。苦情相談箱を設置しているがこれまでに苦情等はない。日常生活の状況を毎月担当からのコメントを入れて送付したり工夫を凝らし取り組まれていた。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	川崎町での行事に参加したり、保育所、小学校、中学校との交流はあるが近隣の地域との交流が国道がネックになり困難な状況にある。地域在住の職員と共に地域育成会に働きかけ、認知症ケアの理解をしていただき地域と交流を多く持つよう取り組んでいこうとする姿勢が感じられた。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者が異動してから一年目であり、法人の理念をそのまま引き継いでいる。今回の外部評価を期に、職員と話し合いを持ち、地域密着型サービスに基づいた理念を掲げ取り組もうとしている。	○	基準省令にあるように地域密着型サービスの理念に加え、地域住民に認知症ケアの理解をしていただくために川崎町の協力を得て働きかけをし地域と共に認知症ケアに取り組んでいく事を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニットに理念を掲げ唱和している。日頃一人一人に応じたケア内容を実践の中で取り組んでおり職員も理解している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育所に出向いたり、小学校の壁画制作、中学校の職場体験の受け入れをしたり地域と交流はあるが、国道を渡らないと住宅地に行けない事で地域住民との交流が環境的に難しい状況にある。同地域に住んでいる職員が多く協力を得て、認知症ケアの理解をしていただき気軽に立ち寄れる様に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	主任が中心となり職員と共に協力をして取り組み、より良いサービスを目指すべくすでに医師、川崎町の関わり、同法人の利用者を含めた行事の進め方等を管理者を軸として取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、同法人の施設で民生委員、川崎町、区長、法人の関係者が出席し実施されている。内容として行事、法人の状況、人事異動の報告であり、議事録も整理されていた。入居者、家族が出席し意見を聞くことも運営推進会議の意味があるので今後の取り組みを期待したい。	○	定期的開催され体制が出来ているが、認知症ケアの応援者である家族、本人が不在の会議である。地域密着型サービスの基本理念であり、本人、家族の要望、意見を聞き、サービス向上に取り組んでいただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	川崎町の地域ケア会議の担当であったり、町を頼り連絡もこまめにしている。認知症になっても安心して過ごせる街づくりを目指し、川崎町側からの働きかけがもう少し具体的に取組んでいく事を期待したい。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	請求書送付時に日頃の様子、金銭内訳のコピー、職員の異動、機関紙、担当職員の手紙を添えて知らせている。預り金は個別に徴収し、職員が管理し明細のコピーは利用料金と一緒に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談箱を置いたり対策を講じているがここ一年苦情はなかったが、散髪を希望される方があり、行きつけの店に家族で出かけたり、職員が対応したりと要望に応じている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年より急な人事異動が相次ぎ、入居者、家族、職員の動揺が隠せなかった。認知症の入居者にとって人的環境を変えることは相当なダメージを与える事になり職員も対応に苦慮した。運営者は今後の人事異動に関して慎重に進め入居者に与えるダメージを最小限になるよう一層の工夫が必要である。	○	運営者は時折現場に足を運び現場の様子を見ることも必要である。人事異動に関してくれぐれも慎重に取り組み入居者が穏やかに生活が送れるよう一層の配慮をしていただきたい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の全体会議で研修参加者の報告を受けその中の最低一つを実践の中で取り入れている。例えばレクリエーションの方法、運動の仕方など、また、法人でも年3回看護師を講師として救急対応、感染症などテーマを設けた勉強会を実施している。職員が進んで課題を見つけ事例検討し研修会で発表されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡協議会に入っており、研修会に参加はしている。近隣の施設とは芋煮会、ボーリング大会などに参加し交流したが人員的に無理があり最近では参加する状態にないが今後研修会で交流が図れるよう取組んで行きたいとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	地域包括支援センターと相談しながら家族、本人に見学していただき、触れ合う場を設けたり、アセスメントの前に管理者が出向き情報を提供しながら状況把握している。入居の際は本人の馴染みの家具などを持ち込んだり、家族、友人、知人等に面会の頻度を多くしていただく様な配慮をし取り組んでいる。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	梅干作り一つにしてもこれまでに培われた方法がそれぞれ違っている。それらを尊重し引き出し、その知識を学びながら完成させて皆で味わい喜び合えるよう取り組まれていた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活暦を配慮しプライドを傷つけず、時には本領を発揮していただく場を設けたり、意向が伝わらず対応が困難な方には「気づきノート」に状況をこまめに記録し本人の要望に早く気づき対応が出来るよう工夫し取り組まれていた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常の状態変化、医師からの指摘(糖尿病の方)、本人、家族の希望を取り入れて介護計画に反映、目標をたてそれに向けた取り組みがなされていた。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	フロア会議の中で月1回カンファレンスが行われ、家族も参加し定期的に見直されている。また、状況の変化により、家族、本人、職員間で話し合いが持たれ見直し実施されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院、送迎の対応をはじめ、緊急時には、家族、川崎町の担当者、事業所と話し合いを持ち3日間のみ宿泊していただいた事もある。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の多くはかかりつけ医に通院し、川崎町以外の方には緊急時の事を考慮し協力医にさせていただいている。通院は家族対応としているが管理者も同行し日頃の状態報告をしている。協力医は夜間診察も可能で相互の連絡もできており、安心できる状況にある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	協力医との関係もよく、隣り合わせた事業所の看護師も24時間体制で協力的であることから、家族と話し合いを持ち希望があれば終末ケアに取り組んでいる。実際、グループホームの研修会にて事例研究発表を行うなどすでに実践されていた。		
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人、家族より了解を得て馴染んだ名前の呼び方や、親しみやすく方言で会話をしたり、汚れた衣類は居室にて着替える事を徹底、記録等も所定の場所にてとりプライバシーに配慮した取り組みがなされていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のリズム作りとして食事の時間は出来るだけ崩さず、皆さんと一緒に摂るようにしているが、就寝時間、テレビ観賞、自宅に帰ることも出来、飲食類も特に規制せず本人の希望に添った支援をしていることが、表情豊かに過ごされている入居者からうかがわれた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と会話が弾み賑やかな食卓を囲まれていた。時には卵料理を積極的に作ったり、庭で取れた野菜を調理する事もあるとのこと。食堂も対面になっており食器などとりやすく片付けやすいようになっていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望する時間帯に入浴することができる。ユニットに一名ずつ夜間浴を希望されている方がおり対応している。入浴を拒む方には足浴や、家族より入浴するよう電話を入れていただくなど工夫をしながら対応をしている。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の自主性を重んじて職員が自然体で取り組めるような環境を作り、居室のぬれ縁を拭く、草取り、お絞りを干す、米を研ぐ、漬物作り、新聞たたみ等の役割を果たしている。今年は行事にさくらんぼ狩りやぶどう狩りを企画し家族の協力を得て実施し、施設に掲示されていたスナップ写真から楽しい様子が見えがえた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日に散歩やドライブに行ったり、誕生日のプレゼントの買い物、足りない食材の買出しと戸外に出かける機会を設けている。外出を希望されない方には食べたいものを聞き出前をとったり対応をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中鍵を掛ける事の弊害を職員が理解しており、夜間は施錠するが日中は掛けず見守り対応をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	7月に「ふれあい」を出火場所として夜間想定の実施訓練を同法人の応援をいただき実施した。その際地元在住の職員の施設までの時間を計ったりホットラインの確認をした。防災マニュアルは法人としてエリア全体のマニュアルが作成されている。備蓄は米、缶詰類がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理者が栄養士であり、パソコンで計算し献立作成をするようになった。疾患による制限食、水分の制限は医師の指導のもと、むせ込みや飲み込みの悪い方への工夫等それぞれに対応をしている。お楽しみ献立に季節感を取り入れたり、行事食を提供している。		
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物全体が木の温もりで寛ぎやすく自然な採光が存分に入り込み、ゆったりとした食堂、長い廊下、小上がりの畳の共有のスペース、随所に設けられたセミプライベートゾーンにさりげなく置かれた椅子、居ながらにして季節感が感じられ小鳥のさえずりが聞こえホームの居心地の良さを感じた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は仏壇を置いて花を飾ったり、ベットの方、布団を敷いて休まれる方、コタツでお茶のみをされる方など思い思いに住まい作りをされていた。また居室からは蔵王連峰が見え四季を感じることができるほっとする空間になっていた。		